

〔報告者〕

○佐藤 佳子（さとう よしこ）

NPO 法人 中信多文化共生ネットワーク

松本市多文化共生プラザ 相談員



<プロフィール>

1971 年生まれ、岡山県倉敷市出身。日本語学校で専任講師として勤務した後、結婚を機に 2003 年に長野県松本市に移住。留学生への指導や日本語教師養成に携わる一方、20 年間にわたって地域日本語教室で日本語を教えている。平成 25～28 年度の 4 年間、文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業コーディネーターとして松本市で事業を実施。

また、NPO 法人中信多文化共生ネットワークでは日本語教育アドバイザーとして県内各地の地域日本語教室で研修を行うほか、松本市多文化共生プラザ相談員として地域の外国人や日本人住民からの相談を受け、市の関係部署や各機関・民間団体と連携して課題解決にあたる。

今春からは訪問介護員としても勤務。地域の介護現場と繋がりながら、在住外国人の介護資格取得や現場での働き方について模索している。

松本市地域づくり市民委員、松本市市民活動推進委員、長野県国際化協会日本語教育事業（文化庁事業）運営委員。

<所属団体紹介>

NPO 法人中信多文化共生ネットワーク（平成 20 年任意団体設立、22 年 NPO 認可）

【松本市からの受託事業】

- ✦ **松本市子ども日本語教育センター**：常勤コーディネーター 2 名。市内の小中学校に日本語支援員を派遣（日本語支援員は市のⅡ種臨時職員）
- ✦ **松本市多文化共生プラザ**：常勤コーディネーター 1 名（多文化ソーシャルワーカー）他、行政書士や日本語教育の専門家などが相談員として勤務。4 か国語の多言語相談員が対応、同行支援も行う。

【独自事業】

- ✦ **ヤングにほんご教室**：外国由来の児童・生徒が、放課後、日本語や教科を学ぶ場
- ✦ **中信にほんごひろば**：外国人の多い地域の公民館や団地の集会所で開催している教室
- ✦ **みんなの日本語教室**：文法や読み書きを基礎から積み上げて学びたい外国人向けの教室
- ✦ **多文化人財センター**：外国人住民の能力を、インバウンドや国際理解教育に生かす取組み

<活動内容>

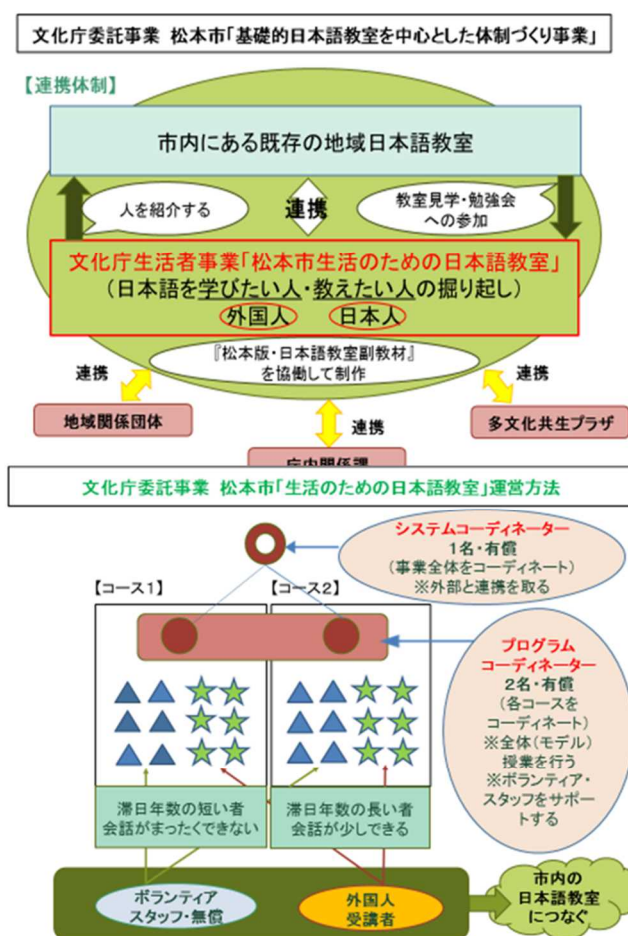
1. 課題「外国人と行政と日本語教室をつなぐ」

- 松本市内の12の地域日本語教室 ➡ 地域に知られていない。
- ボランティア「教え方がわからない」／外国人受講者「楽しくない、わからない」
- 市職員に外国人住民の姿がほとんど見えていない。



2. 課題解決のための方法と手順

文化庁事業で行政（松本市）が「有償コーディネーターのいる」新しい教室をつくる



- 1か月半の初期集中講座を年3回実施
- 修了した外国人受講者と日本語ボランティアを既存の教室につなぐ。
- 他の日本語教室と協働して、松本市のオリジナル教材を作成

【結果】人をつなぎ、教材作成について意見交換する中で教室間のつながりを生み出す。

- システムコーディネーター（事業全体を統括し外部との連携を図る）＝ 有償
- プログラムコーディネーター（モデル授業実施、ボランティアと学習者のマッチング、ボランティアのサポート）＝ 有償
- ボランティア ＝ 無償

【結果】外国人受講者は一定水準を保証された授業が受けられる。ボランティアは教え方のアドバイスをもらいながら安心して活動できる。
→修了後は市内の各日本語教室で活動継続。

3. リソースの活用

- ✓ 研修はプロのOJTトレーナーやファシリテーターに依頼：ビジネス発想を教室運営に！
- ✓ 松本市が実施する出前講座を教室に呼ぶことで市職員に外国人住民の実情を知ってもらう。

4. コーディネーターとしての現在の取組み

- ◆ 「学ぶメリットを外国人に示す」：日本語を学んだ外国人に就労支援し、ロールモデルに。
- ◆ 「外国人人財・日本語教育人財の活躍を示す」：教室で掘り起こした人財の活躍の場を創出。
当法人で立ち上げた多文化人財センターや、キャリアコンサルタント事務所と連携。